

1 計画の目的

本計画は、本年7月に策定した「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」を具体化し、関係機関・団体等が一体となって、中部山岳国立公園（周辺地域を含む）の活性化を図ることを目的として、策定するものである。

2 計画の概要

(注) 本計画策定時点で、新たな元号が制定されていないため、皇位継承の予定日以降の年表記も「平成」を用い、西暦と併記。

(1) 対象地域

対象地域は、中部山岳国立公園、乗鞍山麓及び奥飛騨温泉郷とする。



(2) 計画の期間

計画は平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5年間とする（注）。



(3) 計画の位置付け

- 本計画は、岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想を具体化するものである。
- 中部山岳国立公園南部地域管理計画書（環境省）、岐阜県環境基本計画、岐阜県成長・雇用戦略2017、清流の国ぎふ創生総合戦略（岐阜県）、高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略、飛騨高山ブランド戦略（高山市）等の国・県・市の関連計画との整合性を図るものとする。

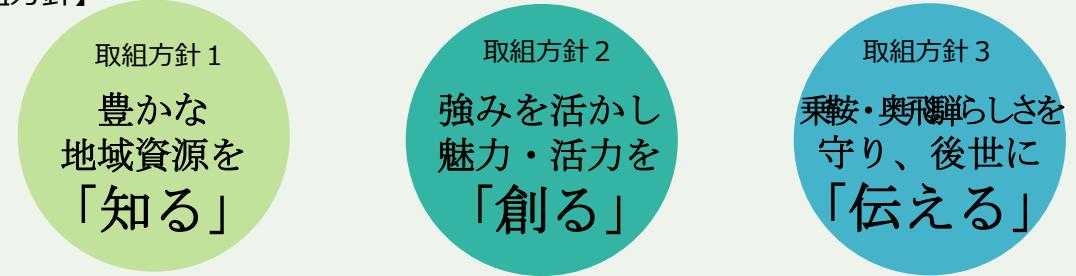
3 目指すべき姿

(1) 基本構想のコンセプト・取組方針

【コンセプト】

「誰でも体験できる3,000m級の高山帯、
飛騨人のもてなしと露天風呂めぐり」

【取組方針】



(2) 目指すべき姿

関係者が一体となって、地域の魅力を磨き、発信する取組みを継続的に進めるため、中長期的に目指すべき姿を、次のとおり設定。

地域の人々が誇りをもって暮らし、語る事ができる、持続可能な地域となること

地域の魅力に惹かれた人々が国内外から集い、滞在・交流する地域となること

地域の人々とこの地域を愛する人々によって、かけがえない大自然が持続的に維持され、我が国の豊かな自然環境を代表する場所として認知される地域となること

(3) 取組みの指標

「入込客数（国内・国外）」 「旅行消費額」 「滞在者の満足度」 「リピーター率」 「環境教育等の利用者数（環境教育、ガイドツアー等利用者数）」 「自然系ガイド数」 「参加型環境保全活動等への参加者数」 「環境保全状況（乗鞍岳）」

4 計画の推進

(1) 計画の実行、進捗状況の管理

- 国、県、高山市、関係団体は、相互に連携を図りながら、この計画の取組みを着実に実行する。
- 取組状況は、毎年、行政機関と関係団体等を構成員として設置する協議会において、評価と検証を行い、必要な見直しを行う。

(2) 広域連携

- 中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会の場等を通じた長野県・関係団体等との連携
- 国や他の中部山岳国立公園構成県（富山県・新潟県）等との協調による発信力強化、ブランドイメージ向上

5 具体的な施策

取組みの実施に当たっては、行政機関、民間団体、地域住民が連携して進める必要があることから、意見交換等を通じて丁寧に意思疎通を図りながら推進する。

取組方針 1

豊かな地域資源を「知る」

1-1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

○豊かな自然を知り、誇りを醸成する経験機会の創出

- ・ 魅力を体感し、誇りを育むガイドツアーの開催
- ・ 地域の住民と訪問者が魅力を語り合う機会の創出 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍山麓 五色ヶ原の森

○飛騨山脈ジオパーク構想の取組推進

- ・ ジオパーク構想の取組推進
- ・ 学習プログラムの構築
- ・ 学習会等の開催
- ・ ジオパークガイドの育成
【市・団体：H30～】

1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

○大学や研究機関との連携交流

- ・ 宇宙線や天体の観測研究（東大・京大）、地震、砂防（京大）など、公園内や周辺の観測・研究施設との連携交流の促進
- ・ ビジターセンター等における研究成果の展示 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍スカイライン

○環境教育の推進

- ・ 乗鞍岳（畳平～剣ヶ峰、五色ヶ原）をフィールドとする環境教育プログラム（副教材）を作成
- ・ 現地学習の促進のための助成制度の構築、教育旅行の誘致
- ・ 温泉等の多様な資源を活かした総合的な環境教育プログラム構築 等
【県・市・団体：H30～】



ぎふ清流未来会議開催の様子

取組方針 2

強みを活かし魅力・活力を「創る」

2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信

○魅力ある体験プログラムの造成

- ・ 乗鞍山頂域の大自然、ライチョウ、標高2000mの星空などの特徴的な資源を生かしたツアーの造成
【県・市・団体：H30～】



ライチョウ（夏）

○ONSEN・ガストロノミーツーリズムの推進 【県・市・団体：H30～】

○「誰でも容易に到達できる日本最高所」の進化

- ・ 外国人、高齢者、障がい者、子育て世代等に配慮した施設、案内体制の整備 【国・県・市：H30～】

○最先端の情報技術を利用したアプリケーションの開発研究（IAMASとの共同開発） 【県：H30～H33】

○温泉地の賑わいづくり

- ・ 誘客イベントの開催
- ・ 温泉を活かした滞在プログラムづくり等 【団体：H30～】

○安全・安心な登山環境づくり

- ・ 登山者への情報提供、新穂高地区駐車場対策、火山防災対策
【県・市・団体：H30～】

○景観の改善の検討【市】

○二次交通の充実【市・事業者：H30～】



奥飛騨温泉郷

2-2 持続的な活力の創出

○高山市街地と国立公園のシームレス化

- ・ 観光案内拠点間における情報の相互提供
- ・ ロングトレイル、サイクリングルートの開発の検討 等
【県・市・団体：H31～】

○人材の交流、活躍の場づくり【県・市・団体：H30～】

- ・ 大学のフィールド研究等の研究教育活動の受入
- ・ ビジターセンターの安定した運営に向けた体制構築 等

取組方針 3

乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

3-1 自然の保護と利用の両立

○国立公園利用拠点の整備

- ・ 総合窓口となるビジターセンターの整備
【県：H30～】



乗鞍岳

○乗鞍岳の環境保全対策の進化

- ・ これまでの環境保全施策の効果（植生回復、ライチョウの安定的生息等）のPRとブランド化
- ・ 自動車利用のあり方の継続的な検討
【県・市・団体：H30～】



乗鞍スカイライン EVレンタカー実証実験事業（乗鞍自動車利用適正化協議会）

○快適な自然公園施設の整備

- ・ トイレの洋式化
- ・ 案内標識多言語化、デザイン統一化
【国・県・市：H30～】

3-2 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

○質の高いガイド人材の育成

- ・ レベルに応じた自然系ガイドの育成、ガイドプログラムの作成
- ・ 外国人ガイドの活躍の場の確保と多言語対応が可能な日本人ガイドの育成 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍美化の会による外来植物除去作業

○参加型の環境保全・登山道整備の推進

- ・ 参加型の外来種駆除活動や登山道補修活動の取組み
（例）平湯観光協会の登山道補修 乗鞍美化の会の外来種除去
【市・団体：H30～】

イメージ戦略の構築と情報発信・プロモーション

○誰が聞いてもイメージできる愛称（日本語・英語）やロゴマーク等、統一的な地域イメージの形成に向けた取組み

○訪問客の属性や嗜好等のニーズの継続的な把握

○ニーズに即して、的確な情報発信を行うとともに、積極的なプロモーションを推進。（例）SNS活用、登山・アウトドア関係企業等と連携したキャンペーン、海外旅行会社を招聘したモニターツアーなど